

社員と学生、ワンチーム

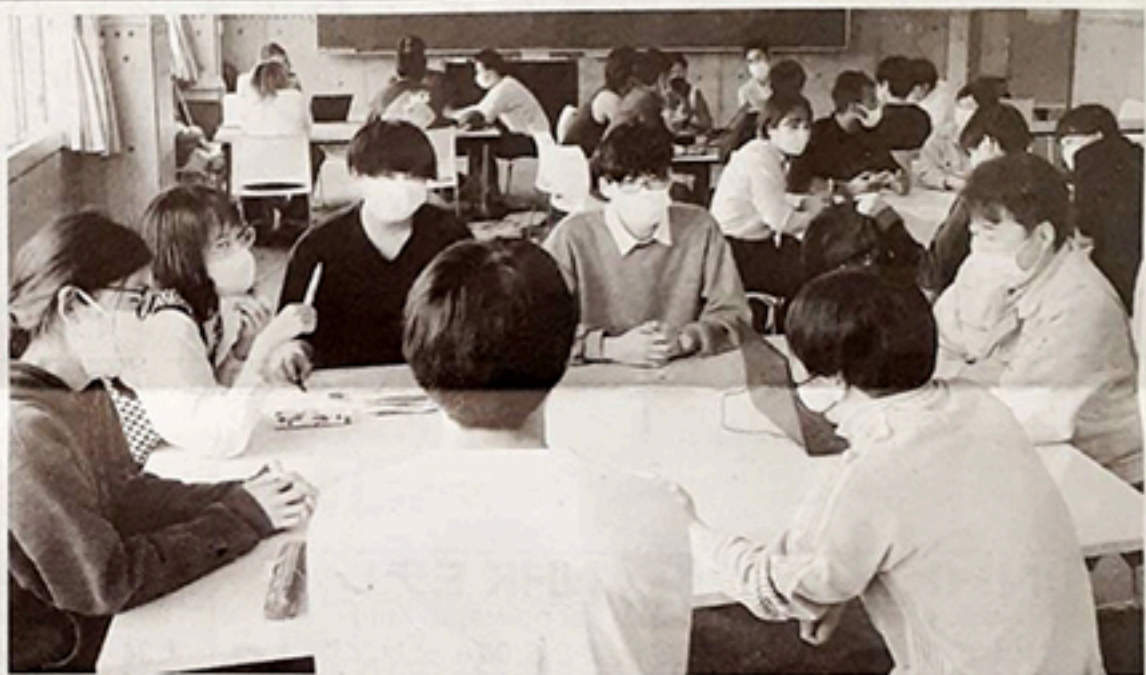
コラボで
連続講義
三重化学工業（大町）四日市大と

松阪市大口町に本社を置く医療機器・保冷剤・作業用手袋メーカー・三重化学工業株（山川大輔代表取締役社長）は4月から6月にかけて、四日市市の四日市大学（岩崎恭典学長）とコラボし、SDGs（持続可能な開発目標）や、地元企業の地域社会貢献といったテーマについて、社員と学生が一緒になって考える授業を行っている。

同社が2月に2021（令和3）年度「三重のおもてなし経営企業選」に選ばれたのを機に、同

大学総合政策学部の岩崎祐子特任教授（国際経済、国際金融）が同社の新本社内のオープンラボ「ミエラボ」（多様な人材と連携するための研究所）を訪れ、コラボ事業の話が持ち上がった。

同大学ではかねて、「三重のおもてなし経営企業選」に選ばれた企業の経営者らを講師に招いて特別授業を行ってきたが、今回は初めて週1回の連続講義で、受講生には単位認定も行う本格的なもの。3年生を中心に留学生5人を含む27人の学生



5チームに分かれて一つのテーマを掘り下げていく学生と社員＝四日市市の四日市大学で

と、同社の社員5人が参加している。

導入は、学生の質問に答える形で同社の製品や「ミエラボ」といった新しい取り組みについて紹介し、オリジナル保冷剤を作るワークショップも。

その後は学生と社員混成の5チームに分かれてチームビルディング（チーム作り）。三重化学工業のSDGsや地域社会貢献、新商品開発などの

テーマについて、学生と社員が一つのチームになってコミュニケーションを活性化させながら取り組み「チームの強化」を目指すという。

新型コロナウイルス感染拡大のさなかに入学した学生たちは同級生でも顔を知らない状態という、山川社長（44）は「学生同士のコミュニケーション力の向上に寄与し、より良い学びの場を提供できれば」と話している。